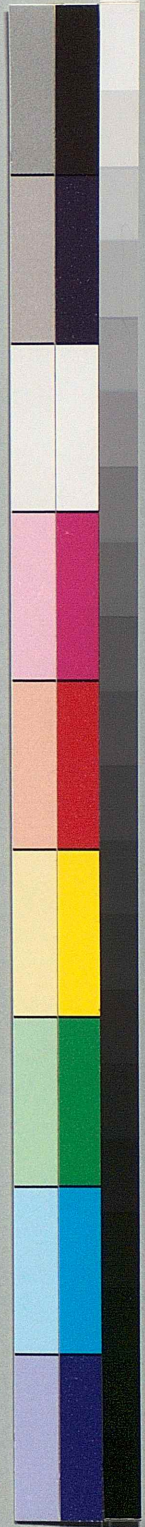
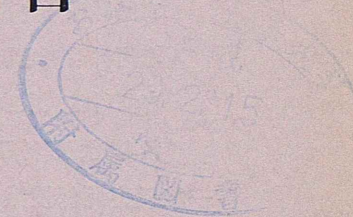


「学生便覧別冊」

昭和36年度開講科目

お茶の水女子大学



目 次

昭和36年度開講科目

一般教育科目.....1
 外国語.....4
 一般体育.....7
 専門科目(文教育学部).....8
 専門科目(理学部).....28
 専門科目(家政学部).....39
 教職教育科目.....48
 一般教育関係授業時間割.....55

付

1. 各科補導委員.....51
 2. 昭和36年度行事予定.....53

昭和36年度開講科目

- 備考 1. 科目名からそのまま内容が推定されるものについては、説明を省いたものもある。
 2. 科目名の順序その他は必ずしも一定の形にそっていない。

一般教育科目および外国語

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
◎一般教育科目			
○人文科学系列			
哲学	藤田・石塚	I	哲学についての一般的な序説の後、西洋哲学思想史を古代・中世(前期)・近世(後期)に涉って概説する。
倫理学	勝部	I, II 前	教育と倫理、政治と倫理、経済と倫理、事実と価値等につき、生活における倫理的要素の反省と考案を試みる。
心理学	松村		現代心理学の動向。一般心理学の対象と領域。講義形式および集団運営法(バス方式)を活用して、基本的な態度が育つようにする。

心理学 (社会心理学)	小口	II	一般心理学では精神生活の概要をとりあつかうにせまらざるを得ないので、主として二年生のために、このコースを設けた。
宗教学	高木	I	
文学 I	関根	I	清少納言と紫式部の文学について。両者の作品を忠実に読みながら考える。従ってテキストを正確に読む努力を必要とする。
文学 II	志田	II, III, IV	ドイツ文学史「ドイツ古典風から浪漫風へ」。『イタリー紀行』以後のゲーテを中心として。
美学・美術史	町田		造形芸術を対象として、前期美学はその恒常的な本質の面について。後期の美術史は、その歴史的展開の相について概説する。美術史は日本美術史を扱う。
音楽	未定		コーリューブゲン、コールシューレ、ダノーゼル等による基礎唱法(ソルフェージュ) 古典及び浪漫を中心とする合唱曲による合唱法と音楽鑑賞。
○社会科学系列			
法学 I	井上	I 前	日本国憲法
法学 II	渡辺(洋)	II	私法を中心として、日本の法と社会を概観する。
政治学	井上	I 後	政治学
経済学	安藤		資本主義発達史。特にわが国におけるそれを中心として(なかんづく明治維新以降) 経済学を概説する。
社会学	大橋	I, II,	社会学の基礎概念および理論体系の概略について講義。
歴史学	赤木(志)	I 前	日本歴史の史籍の、重要なものについて、その成立の社会的背景という観点に立って書籍解題と思想史概説をする。
歴史学	和田	I 後	東南アジア近代史の概説。
文化人類学	大林	II 後	文化人類学の概論。

地理学	渡辺(光)	I 前	主要自然地域と文化地域の概観。
家政学	谷田外	I 後	家政学の概説と現況。
○自然科学系列			
数学	立花(俊)	I	数学における話題(教科書は使はない予定)。
物理学	小野	I	力学から原子物理学への発展を歴史的に解説する。高等学校の物理を取っていないものにも理解できることを目標とする。
化学	岡嶋	I (文・家)	一般教育としての化学通論。(2クラスに分けて講義を行なう。) テキスト: 化学総説(林太郎著、裳華房)
生物学(動物学)	荒木	I, II 後	動物を中心にした生物学。
生物学(植物学)	塚本	I 前	主として生物の新陳代謝について。
地学(天文気象)	吉武	I	気象学全般にわたる基礎的な現象の概説ならびに天文学のうち特に我々の日常生活に密接な関係のある事項について。
地学(地質鉱物)		I	地震・火山・土地の昇降等の地学的解説。
統計学	魚返	I 前	初等的な統計的な解析について述べる。
○総合コース			
(主として二年生向) 単位数 4 単位 (月曜 3・4 時限)			
内容は問題中心にとりあつかう。題目「東と西」			
今年度の講師			
藤田・尾鍋・渡辺(光)・鍋島・波多野・林(太)・内海・菅井・八杉・蠟山・安藤・井上			

◎外国語

英語(初級)	滝沢	文 I A	H. Walpole : Jeremy and Hamlet (英宝社)
同	奥	文 I A	
同	伊吹	文 I B	Henry James : The Figure in the Carpet (篠崎書林) 高野フミ編 ¥60
同	宮田	文 I B	成田成寿編 Enoch Arden by Tennyson (大阪教育図書¥80)
同	伊吹	理 I A	Charlotte Brontë : Jane Eyre (篠崎書林) 大山敏子編 ¥130
同	堀	理 I A	Watts-Dunton : Aylwin
同	木原	理 I B	Conan Doyle (植田虎雄編) : A Scandal in Bohemia, etc. (研究社)
同	西崎	理 I B	W. Saroyan : Seventeen and Other Stories (山口書店 ¥80)
同	西崎	家 I	E. Brontë : Wuthering Heights (北星堂 ¥140)
同	野島	家 I	D. Garnett : Lady into Fox
英語(上級)	木原	文 II A	O. Henry, (中内正利編) : After Twenty Years etc. (研究社)
同	石渡	文 II A	C. Brontë (西崎一郎編註) : Jane Eyre (北星堂)
同	西崎	文 II B	Dylan Thomas : Quite Early One Morning (北星堂 ¥110)
同	堀	文 II B	Galsworthy : Indian Summer of a Forsyte
同	野島	理 II A	A. Toynbee : Encontros between Civilization

英語(上級)	野島	理 II A	
同	ルイス	理 II A	
同	滝沢	理 II B	G. Gissing : The Paying Guest (金星堂) [2時間授業に使用]
同	滝沢	理 II B	
同	ルイス	理 II B	
同	野島	家 II	D. H. Lawrence : St Mawr
同	滝沢	家 II	A. Christie : The Case of The Middle aged Wife Roy Vickers : The Rubber Trumpet (山口書店)
同	ルイス	家 II	
ドイツ語(初級)	志田	全 I	生きたドイツ現代語を習得するための演習2時間1単位、初級文法・初級読本と併せて履修すること。(教科書) 中条編 : 現代ドイツ短文集(南江堂)。
同	志田	全 I	上記演習の補助教材として併用。(教科書) 中村・志田編 : ドイツ民謡集(南江堂) [未刊]。
同	吉田	文 I	初級文法2時間1単位。(教科書) 阿部編 : 新ドイツ文法 (朝日出版社)。
同	野村	文 I	初級読本2時間2単位。(教科書) 野村編 : ミュンヘンの日本人 (朝日出版社)。
同	横溝	理 I	初級文法2時間1単位。(教科書) 横溝編 : 双用ドイツ文法 (白水社)。
同	吉田	理 I	初級読本2時間2単位。(教科書) シンチガー・山本編 : ドイツ語第一年 (郁文堂)。

ドイツ語(初級)	志田	家I	初級文法2時間1単位。(教科書)岩崎編:ドイツ文法演習(郁文堂)。
同	横溝	家I	初級読本2時間2単位。(教科書)横溝・北条編:新しいドイツ語(大学書林)。
ドイツ語(上級)	志田	文II	上級講読2時間2単位。(教科書)Storm: Immensee(朝日出版社)。
同	吉田	文II	上級講読2時間2単位。(教科書)Goethe: Über die Natur(大学書林)。
同	野村	理II	上級講読2時間2単位。(教科書)未定。
同	横溝	理A 家II	上級講読2時間2単位。(教科書) Böll: Mein Onkel Fred(三修社) [理 A=数・物]
同	志田	理B 家II	上級講読2時間2単位。(教科書) Storm: Immensee(朝日出版社) [理 B=化・生]
ドイツ語(高級)	志田	全II, III, IV	高級講読2時間2単位。(教科書) Mörke: Mozart auf der Reise nach Prag(郁文堂)。
フランス語(初級)	小泉	全I	初級文法4時間2単位。(教科書)未定。
同	辻	全I	初級読本2時間2単位。(教科書)朝倉:朝倉フランス語(白水社)。
フランス語(上級)	小泉	全II	上級講読2時間2単位。(教科書)未定。
同	辻	全II	上級講読2時間2単位。(教科書)バルザック:知られざる傑作(白水社)。
フランス語(高級)	井上	全II, III, IV	高級講読2時間2単位。(教科書)メルバル:シルビー(第三書房)。
仏会話	モレン ヤン	全II, III, IV	外人講師によるフランス語会話演習2時間2単位。

◎一般体育

体育講義 (体育)	未定	大学体育研究サークル編「体育学概論」。
“(”)	戸倉	女子体育の重要性について述べ、欧米における体育事情の知識を与える。
“(衛生)	渡辺	
体育実技	未定・ 戸倉・ 林・ 石山・ 古江	(I、II)なお、この時間だけでは実技単位に対して30時間不足。従って体育第二コースで補充するが、第三(四)年次の授業に出席して補充するかの方法がある。体育第二コースは課外ならびに学外の体育運動を履修し指導教官の認定を要する。

専 門 科 目

文 教 育 学 部

哲 学 科

科 目 名	担当教官	対象 学年	講 義 内 容
哲学通論	藤 田	Ⅲ	哲学全体にわたる主要問題として、知識、文化、歴史、実践、人間存在等の基礎知識。
哲学特講	藤 田	Ⅱ	ヘーゲル哲学解体以後19世紀後半のドイツ哲学。シェリング後期の哲学からキエルケゴール、ショーペンハウアー、ブルクハルト、ニイチェに至る。
哲学演習(1)	藤 田	Ⅱ後	未定
哲学演習(2)	藤 田	Ⅲ	Karl Löwith Weltgeschichte und Heilsgeschehen
哲学演習(3)	藤 田	Ⅳ	同上
西洋倫理思想史概説	勝 部	Ⅰ	西洋倫理思想の展開過程を、古代・中世・近代・現代の4つの時代区分に従って概説する。テキスト使用。
倫理学概論	勝 部	Ⅱ	現代倫理学の主要学説を、人倫の理法、時空の理法、価値の理法を中心にして分類紹介する。
日本倫理思想史概説	勝 部	Ⅲ	日本における倫理思想の展開過程を五つの型にわけて概説する。テキスト使用予定。

論 理 学	石 塚	Ⅰ	形式論理学。
近世哲学史	石 塚	Ⅱ	デカルトからヘーゲル哲学崩壊後まで。
哲学史演習	石 塚	Ⅲ, Ⅳ	Kant: I. — Gruntlegung zur Metaphysik der Sitten.
西洋古代中世哲学史	藤 井	Ⅲ, Ⅳ	本年度はソクラテスからアリストテレスまでに重点をおいて、初期時代から古代末期にいたるまでの哲学思潮を概説する予定。
哲学特講	岩 崎	Ⅲ, Ⅳ	倫理学の問題点の指摘。種々の倫理学説の検討、倫理的原理および行為の問題についての解明を意図する。
東洋哲学史	玉 城	Ⅱ	(一)古代インドの哲学思想、(二)インドにおける主要な哲学説と近代インド思想、(三)仏教のインド的シナの日本的展開。
倫理学特講 (近代の人間像)	小 倉	Ⅲ, Ⅳ	西洋近代の代表的人間像を倫理思想を中心にして比較検討する。
美学特講	谷 田	Ⅲ, Ⅳ	芸術における型の問題、その他。
美学特講	三 輪	Ⅲ, Ⅳ	イタリア、ルネサンスの美術について、幻燈を使用して、かなり詳しく、お話しいたします。

史 学 科

科 目 名	担当教官	対象 学年	講 義 内 容
史学概論	中村英	Ⅲ	史学史、歴史理論、歴史観、歴史学研究法の諸問題について講述する。
日本史概説	中村一	Ⅰ	日本史の体系および構造を明らかにすることに重点を置いて講述する。テキスト：日本史通論(朝倉書店)
日本史学演習A	中村一	Ⅲ, Ⅳ	「近世の経済思想」に関する演習。

日本史特講 B	赤木志	Ⅲ, IV	平安時代の文化社会考察。
日本史学演習B	赤木志	Ⅲ, IV	栄花物語講読。
日本史史料講読	赤木志	II	古代からの法令その他の文書により、各時代の社会生活を考えるため、プリントを使い史料講読。
古文書学	赤木志	Ⅲ後	古文書学概論および一部古文書講読。
日本史特講 C	大石	Ⅲ, IV	享保改革の経済政策のなか、昨年の農村政策につづき、商業政策(広い意味で)を順をおって講義をしてゆく。
東洋史概説	和田, 市古	I	東洋諸民族社会の発達について講義。前期は和田、後期は市古が担当。
東洋史史料講読	市古, 和田	II	主要な史籍の解題およびその講読。前期は市古、後期は和田が担当。
東洋史特講 A	市古	Ⅲ, IV	"太平天国"の歴史的研究。
東料史学演習A	市古	Ⅲ, IV	1920年代の農民運動。
東洋史特講 B	和田	Ⅲ, IV	東南アジア史上の諸問題。
東洋史学演習B	和田	Ⅲ, IV	宋代の海上貿易に関する史料。
東洋史特講 C	藤田	Ⅲ, IV	1934~5年の中共の長征を中心に、その前後における中国の政治経済文化の激動を通じて、中国社会の近代化への苦闘を展望する。
東洋史概説	尾鍋	I	今年度は1945年以後をとりあつかう。テキストは尾鍋輝彦：西洋史概説、下巻。
西洋史史料講読	中村英	II前	イギリス経済史に関する史料および文献を講読し、経済史の基礎知識について学ぶ。
西洋史史料講読	尾鍋	II後	テキストはWallbank & others: Studying Civilization, vol I, II.
西洋史特講 A	尾鍋	Ⅲ, IV	現代の歴史的背景。
西洋史学演習A	尾鍋	Ⅲ, IV	主として外国雑誌論文研究および卒業論文製作指導。
西洋史特講 B	中村英	Ⅲ, IV	イギリス議会史、今年度はとくに19世紀を中心として講述する。

西洋史学演習B	中村英	Ⅲ, IV	19世紀および20世紀のイギリス史の諸問題について課題を割当て、レポートさせる。
世界近代史	百瀬	Ⅲ, IV	第二次大戦史。ヨーロッパの国際関係を中心に、従来の研究動向・成果を紹介し、今後の研究課題を考える手掛りとしたい。

地理学科

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
地理学概論	渡辺	IV	地理学本質論と地理学発達史。
経済地理学	渡辺	Ⅲ	経済現象の地理的考察、その前提としての人文的諸条件、第一次及び第二次生産地域、及び主要生産物の商品地理的考察。
外国地誌 I (世界)	渡辺	Ⅱ, Ⅲ	世界の主要文化地域の概観的地誌の自然地理、人文地理の基礎知識を前提とせず。中学校の社会科、理科的知識の基盤に立脚して講述。
地理学特講	渡辺	IV	(専攻科)地誌学外国文献講読指導。
地理学巡検	渡辺	II	4日間にわたる野外調査指導。
気候学 I	松井	I	気候学の簡単な基礎知識。
日本地誌 I	松井	Ⅲ	日本の自然地理。
外国地誌 II	松井	Ⅲ, IV	ソヴィエト連邦。
地理学特講	松井	Ⅲ前	那須扇状地地誌。
陸水海洋学	松井	Ⅲ, IV前	海洋および陸水の地理
自然地理学実験	松井, 浅海	Ⅲ	地形・土壌・気候などに関する試料の室内実験、分布図の作成作業など。

地形学	浅海	II	地形輪廻、地形発達に関する基礎的理論。
土壌学	浅海	III前	土壌の生成、分類に関する学説。土壌の分布の地理学的考察。
地図学演習	浅海	I	簡易測量、地図投影作図の実習。地形図に関する作業。
地理学演習 II (独書講読)	浅海	III	地理学に関するドイツ文献の講読。前期は初歩の基礎的なもの (Hettner: Länderkunde)、後期はやや専門的なもの (未定)。
地質学	戸谷	I	動力地質学一般。
集落地理学 I	式	III前	集落の発達・形態・機能に関する地理学的考察。
地理学演習 I (英書講読)	式	II	地理用語の説明にはじまり、地理英書講読、論文読解におよぶ。Finch & Trewartha: Elements of Geography など。
写真地理学	式	III前	空中写真測量、判読の基礎知識および地形・地質・土壌・植生・土地利用に関する判読例および方法の解説。
地理調査法	式	III後	地理調査に関する一般方法と実例の解説。地形図学、土地分類法を含む。
地理学演習 III	全員	III, IV	
地理学特講	福井	III, IV 後	気候学の中で最近中心になっている問題数箇所を選んで重点的且つ解説的に講述する予定である。
交通地理学	有末	III, IV 後	交通の本質交通学の成立交通地理学の生成交通地理学の体形交通圏の諸問題産業構造と交通需要、交通地理学の研究法。
政治地理学	別技	III, IV 前	(1)序論——政治地理学の発達およびその概念。(2)本論——アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、太平洋各地域における政治地理的問題。
地理学特講	未定	III, IV 後	

文学科 国文学・国語学専攻			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
上古文学史 中古文学史	次田	I	前期は上古文学史、後期は中古文学史の概説。
国文学講義講読 上古	次田	II	万葉集巻1～巻3の講義講読。
国文学演習 上古	次田	III	上代歌謡 (テキストは記紀歌謡集)
国文学特殊講義 上古	次田	III, IV	古事記の神話の考察 (高天原神話を中心として)。
国文学講義講読 (近古・近世)	井本	I	芭蕉の紀行をテキストにした講義講読。
国文学演習 (近古・近世)	井本	II	近古の歌論書をテキストに用いて、国文学の古典の基礎的読解力をつけるための演習。
日本文学史 (近古)	井本	III	近古時代の日本文学史概説。
国文学特殊講義	井本	専攻科	
国文学講義講読 (中古)	関根	II	源氏物語、若菜巻。
中古文学演習	関根	III	平安時代の和歌 (後撰集など)。
中古文学特講	関根	IV	中古和歌について (主として後撰集をテキストとする)。

近世文学史	堤	IV	近世日本文学史の史的展開について考察する。
国文学講義講読	堤	I	近世文学の各ジャンルより選び、講読する。
国文学演習	堤	III	「西鶴独吟自註百韻」。
国文学特殊講義	堤	IV	浮世草子論。
近代文学	高田	III	日本近代文学のなしたげた旧習打破の意味と限界とについて、前期は概観的に、後期は個々の作品に即して考察したい。
大正文学研究	成瀬	IV	自然主義文学以後の、主として大正期と呼ばれる時代の文学についての再検討を試みてみたい。
国語学概論	江湖山	I	
国語学史概説	江湖山	II	
国語学演習 その1	江湖山	III	テキスト——古事記。
国語学特殊講義 その1	江湖山	IV	上代特殊仮名づかい（継続講義）。
国語法概説	市川	III	日本文法（口語・文語）の概説。
国語学史概説	市川	III	国語研究史の概説。
国語学特殊講義 （その2）	市川	IV	文章論の理論、ならびに、作品への適用。
国語学演習 （その2）	市川	II	徒然草。（継続）
国文学特講	阪本	III	日本近代文学の中に発生した近代詩の概況、但し本年は明治三十年以後の詩人を対象として考察する。

文 学 科 中国文学専攻			
科 目 名	担当教官	対象 学年	講 義 内 容
中国文学講読(旧)	網	I	唐詩選を使用。李白及び杜甫を中心として盛唐の詩を読む。
中国文学概説	網	I, II	宋代以後について講義する。
中国文学講読(旧)	網	II	文選の詩。
中国文学講読(旧)	網	III	文選の文章。
中国文学特講(旧)	網	III	
中国文学演習(旧)	網	IV	詩経および荘子を使用する。
中国語学概説	頼	I	「新しい中国語教本」使用。
中国語学講読	頼	II	郭沫若訳「離騷」使用。
中国語学特講	頼	II	ノートによる。(1) 音韻、(2) 語法、(3) 文字。
中国語学講読	頼	III	文王講読
中国語学演習	頼	IV	生民疏（前年度使用プリントの続き）。
中国文学講読	中山	I	現代白話文をテキストとしその読解を学習する。
中国語学講読	中山	I	中国語入門。発音会話語法を中心とする。
中国文学講読	中山	II	紅樓夢・儒林外史の味読をする。
中国文学特講	中山	III	明曲の研究と宋代話本の研究。
中国思想史(上代)	小林	III	中国上代の思想要点を幾つか拾い上げ、その相互関係を説明することによって、中国思想展開の筋を窮める。

中国文学特講	黎波	Ⅲ	曹禺の作品——雷雨。
中国文学演習	黎波	Ⅳ	曹禺の作品——北京人。
文 学 科 英文学・英語学専攻			
科 目 名	担当教官	対象 学年	講 義 内 容
英文学演習	鍋島	I	16世紀から19世紀までの抒情詩を主とし、かたわら批評との関連について。用書：Palgrave's Golden Treasury (大山敏子編。篠崎書林。¥200)
英文学史(I)	鍋島	Ⅱ	アングロ・サクソン時代から現代までの英文学の歴史的観察。用書：朱矣田他共著「イギリス文学史」(東大出版会。¥280)
英文学概論	鍋島	Ⅱ, Ⅲ	英米文学の内容と形式における一般的特性、研究方法についての概説。参考書：矢野峰人著「英文学の特性」(松柏社。¥350)
英文学特講	鍋島	Ⅳ	Bacon, Sidney, Ben Jonson を中心とするエリザベス朝の批評とそれ以後の批評の発展。用書：English Critical Essays (XVI-XVIII Century, The World's Classics)
英文学演習	滝沢	I	Willa Cather の小説研究。 My Mortal Enemy, My Antonia, (金星堂)
英文学演習	滝沢	Ⅲ	アメリカ現代劇研究 1. Du Bose Heyward; Porgg (北星堂) 2. Arther Miller; Death of a Salesman (南雲堂)
英文法演習	木原	I	桃沢力「現代英文法」(金星堂)を使用。
英語学概論	木原	Ⅲ	L. P. Smith: <i>The English Language</i> (成美堂)によって英語の語彙の発達を中心にしながら英語学全般について概論する。

英語特殊講義	木原	Ⅲ, Ⅳ	中島文雄「近代英語とその文体」(研究社)によって15世紀後半から18世紀までの英語の変遷をたどる。
英文学史Ⅱ	伊吹	Ⅲ	ロマン主義以後、19世紀から現代までのイギリス文学の歴史的観察。用書：斎藤勇編「英国詩文選」(研究社)。¥450 位。
英文学特講	伊吹	専, Ⅲ, Ⅳ	19世紀イギリス小説について。G. Eliot: <i>Middlemarch</i> を中心として。
英作文	西崎	I	Roget's Thesaurus (北沢書店)。佐々木; <i>The Writing of English</i> (Part II, 北星堂)。New York Times Editorials (北星堂)を注意の事。
英文学演習	西崎	Ⅲ	19世紀演習。(使用書) Robert Browning; "The Ring and the Book" 序巻 中島文雄校訂、研究社発行。本巻 北沢書店扱い。
英文学演習	野島	Ⅱ	Shakespeare: <i>King Lear</i>
英文学特講	野島	Ⅲ, Ⅳ	Family Reunion, To the Light house, The Lady bird, Dubliners などを読みながら Eliot, Lawrence, Woolf, Joyce などに代表される20世紀英文学をみる。
英文学演習	石渡	Ⅱ	Dickens: <i>Oliver Twist</i> (I) (研究社: 英米文学叢書)
英語音声学	宮田	I	英語の発音に関する理論的解説および実際の発音訓練。プリントおよびノートによって講義する。
英会話演習	ルイス	I	未定。
英会話演習	ルイス	Ⅱ	未定。
英作文演習	ルイス	Ⅲ	未定。
英文学特講	ルイス	Ⅳ	未定。

教育学科 教育学専攻			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
教育心理学演習	波多野	Ⅲ, Ⅳ	上述の特講と関連して海外のテストの種類その特質につき、CRONBACH; Essentials of Psychological Testing (Asian Edition) を使用して研究。
心理学特殊講義	波多野	Ⅱ, Ⅲ	心理学専攻者および専攻希望者のために開設されるもの。心理学の現状・諸流派・研究方法の特質。
視聴覚教育特講	波多野	Ⅲ, Ⅳ	今年はテレビの教育的価値・外国のテレビ教育・わが国のテレビ教育の理論と実践を講ずる。
教育心理学特講	波多野	Ⅲ, Ⅳ	教育心理学の諸領域のうち、今年は特にテストの意義・作製および実施について研究する。
教育心理学	阪本	Ⅱ	教育学専攻者のための教育心理学で、発達心理、学習心理、ガイダンス・カンセリングの概要を述べる。
視聴覚教育の心理学	阪本	Ⅲ, Ⅳ	学習方法としての視聴覚教育の理論を究明し、映画、放送、スライド等各メディアの特性について概括し、デモンストレーションを行なう。
児童文化	阪本	Ⅲ, Ⅳ	児童文化の本質、児童文学および各種の児童文化財について考察する。(対象、教育学科および児童学科)
教育科学概論	周郷	Ⅰ	教育研究入門—教育研究の歴史・概観および現代の課題。社会進歩と教育、心理学と教育、政治と教育を含み、日本の教育研究の方向をとらえる。
教育哲学	周郷	Ⅱ前	20世紀における教育哲学の発展と問題—芸術(技術)教育を中心にして。

教育哲学演習	周郷	Ⅲ	原書講読 Hughes & Hughes "Education—some fundamental problems" 1960。
教育哲学特講 (比較教育)	周郷	Ⅳ後	現代教育の理解のための基礎としての比較教育—その発展と問題。
児童心理学特講	小口	Ⅲ, Ⅳ後	the gifted child に関する心理学的諸問題を中心とする。
学習心理学	小口	Ⅲ, Ⅳ	パーソナリティー形成、学習の原理、学習の法則などの解説。
教育測定学概論	小口	Ⅲ, Ⅳ(前)	観察法・テスト法・実験法などの解説。とくに、統計法に重点をおく。
教育測定学演習	小口	Ⅲ, Ⅳ	統計法を中心とした特殊演習。
学習心理学演習	小口	Ⅲ, Ⅳ	Allport, G.W. Becoming 1955 の講読。
発達心理学Ⅰ	小口	Ⅲ, Ⅳ前	精神発達の原理に関する諸学説の解説。
発達心理学Ⅱ (青年心理)	内田	Ⅲ後	青年期の心理学的特質。
中等教育特講	内田	Ⅲ前	思春期における指導上の諸問題。
西洋教育史	柴田	Ⅱ前	
ソ連・中国の教育	柴田	Ⅲ後	
日本教育史	土屋	Ⅰ前	19世紀の西洋教育史。(ロシアを中心として)
日本教育史特講	土屋	Ⅱ後	教員養成の歴史について講究する。

教育行政要論	関野	Ⅲ	戦後の教育改革を中心とする教育行政の推移と課題についての論究。
教育方法概論	吉田	Ⅲ	教育方法の原理について、心理学的、社会学的、歴史的な視点から分析し、学習指導、生活指導の形態を概観する。
教育方法演習	吉田	Ⅳ	Mursell, James: Principles of Democratic Education 1955.
教育方法特講	吉田	Ⅳ前	近代日本における教育方法の歴史。大正から昭和の初頭を中心として。
社会教育概論	吉田	Ⅲ	社会教育の目的、内容、方法、施設などについての概観ならびに問題点の所在を明らかにする。
初等教育	坂元	Ⅱ後	初等教育、ことにわが国の幼稚園、小学校の実情や制度、その教育課程や教育方法等について概観し、その問題点について考究する。
教育社会学特講	坂元	ⅢⅣ	教職論を中心にして、学校社会学の諸問題を論究する。教職の社会的地位、教師の役割、教職活動の社会的構造、教師生活の諸問題。
教育実験実習	坂元	Ⅲ Ⅳ	小学校における実験、調査をプロジェクト的に行なう。
教育課程論	宮田	Ⅱ	教職課程の歴史。カリキュラム論争等。
教育課程演習	宮田	Ⅲ	Otto, H.J.: Social Education in Elementary Schools, 1956.
教育課程特講	宮田	Ⅳ前	教育課程の近代化過程（わが国の場合）
生活指導	宮田	Ⅲ前	生活指導と道徳教育
日本教育史演習	宮田	Ⅲ,Ⅳ 後	日本教育史関係の主要図書数冊を選んで研究する。
教育実験実習	宮田	Ⅲ,Ⅳ	学級集団の研究。
教育社会学概論	河野	Ⅱ	教育社会学の意義、その領域と方法、歴史的展開を概観し、こんにちにおける主要な諸問題を明らかにする。
教育社会学特講	河野	Ⅲ,Ⅳ 前	「教育機会論」をテーマとし、教育における機会均等、個性・能力に応ずる分化、社会的要請などの観点から、わが国の現状と問題をとらえる。

教育社会学演習	河野	Ⅲ,Ⅳ	「教育改革の社会的背景」という視点から、アメリカとイギリスにおける代表的な諸論文（プリント使用）を講読し、研究討議を進める。
教育調査	河野	Ⅲ,Ⅳ 後	「地域社会と教育」を主題にして調査実習をおこない、教育調査の手続、方法、その意義などについての理解を得る。
西洋教育史演習	河野	Ⅲ,Ⅳ 前	「アメリカ教育思想の系譜」を、とくにプログレッシブズとエッセンシャルイズムの対立という視点から、たどる。
婦人問題と教育	未定	Ⅱ前	
家庭教育	古川	Ⅲ後	家庭の社会的、経済的、教育的意味と、特に子どもの立場から、父、母、兄弟姉妹、その他の人が子どもの成長にとって何であるかを考える。

教育学科 体育学専攻

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
体育学原論	林	Ⅲ後 Ⅳ前	体育の本質論。体育と諸科学との関連。および体育の原理。
日本体育史	林	Ⅰ後	わが国における体育の発達について。
体育運動学	未定	Ⅰ前	体育の概論と、体操を中心とする体育運動の理論。
体育運動各論 (第一類)	未定	Ⅰ～Ⅳ	学校体操（女子）の基礎的段階的技術の指導。

体育管理及び施設	未定	IV	体育管理の意義、機能。学校における体育施設の主なるものについて。
女子体育論	戸倉	III	女性一般の体育から幼児体育にまで論及する。
舞踊論	戸倉	I後	舞踊の本質とその史的考察。
体育運動各論 (第三類)	戸倉	I, III IV	学校ダンスの段階的指導。
体育学演習	林	III後 IV前	J. B. Nash: Physical Education and recreation for Life Adjustment. C. C. Cowell; Scientific Foundations of physical Education.
西洋体育史	林	II	西欧古代よりの体育思想とその史実。
体育史演習	林	II後 III前	米国体育史の研究。外国文献を資料としての女子体育発達史の研究。
体育社会学	林	IV前	
体育運動学	林	II前	体育運動を中心として、体育学の概説をする。遊戯の理論。
体育運動各論 (第二類)	林	I~IV	テニス型、野球型の球技とシーズンスポーツの基礎的技術および指導法。
女子体育史	林	IV前	女子体育思想の史的考察。
女子スポーツ論	石山		

体育運動各論 (第二類)	石山	I~IV	バスケットボールおよびハンドボールの沿革・基礎的技術・ゲームの仕方および審判法。
体育心理学	石山	III	体育心理学の成立・課題・対象。
体育心理学実験	石山	III	基礎的実験を行ない、実験の操作・実験過程の観察および結果の処理について練習する。
体育心理学演習	石山	III後	John, D. Lawther; Psychology of Coaching.
体育評価	石山	III前	体育における測定・評価の意義、目的、対象および手順。
体育運動学	石山	II後	女子のスポーツに関する基本的問題。
衛生学	渡辺	II後 III前	個人衛生さらび環境衛生。
健康教育概論	渡辺	III	生理、衛生の一般的な理論・生命現象と環境。
衛生学実験	渡辺	III	環境衛生学に関する実験と測定の術式を実習する。
公衆衛生学 I	渡辺	III前	衛生統計・人口静態・人口動態を主として講述し、更に伝染病学におよぶ。
公衆衛生学 II	渡辺	III後	主として学校保健について講述し、衛生行政、健康管理、社会保障の現状について。
公衆衛生学演習	渡辺	III	公衆衛生学における調査、実験計画法および推計学の演習。
体育特殊講義	渡辺	IV	主として女性の特性について講述する。
女子身体論	小野	II前	女子の身体の特性を説き、体育と職業適性におよぶ。
解剖学	小野	II前	人体の系統解剖学、組織学を述べ、更に運動解剖学におよぶ。
生理学 I	小野	II前	一般生理および植物性官能の生理。
生理学 II	小野	II後	動物官能。

体育生理学	小野	Ⅱ後	Karpovich ; Physiology of muscular Activity に準拠。
生理学実験	小野	Ⅲ	生理学の実験測定法の術式を習得する。
発育論	小野	Ⅱ前	胎生学および生後の形態機能の発達過程について。
声乐	藺田	I	基礎発声法研究。コールユーブンゲン、コールシュール・ダノーゼル等による基礎唱法（ソルフェージュ）発声法。
音楽理論	美田	I	音楽一年の音楽概論を前期のみ合併で行なう。音楽理論の基礎。
ピアノ	守田見遠	I	基礎奏法および伴奏法の研究。

教育学科 音楽教育学専攻

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
指揮法	藺田	Ⅳ	合唱指揮法、管絃奏法との関係、管絃奏指揮法、総譜弾奏法。
連合合唱	藺田	Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	女声合唱におけるアンサンブルの技巧および伴奏楽器との関係。
合唱	藺田	Ⅲ, Ⅳ	合唱指導法および編曲法、合唱と語法との関係。
基礎唱法	藺田	I	基礎的発声法研究。ソルフェージュ。
声乐(独唱)	藺田	Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	発声法および各国語による発語法、古典、浪漫、近代、現代歌曲およびアリア唱法。

声乐(独唱)	小泉	Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	リードおよびアリア唱法。
合唱	小泉	Ⅱ	コールユーブンゲン、コールシュール、ダノーゼル等による音程およびリズムの訓練。重唱等の小アンサンブル。
ピアノ	守田見遠	I	基礎奏法の研究。
ピアノ	守田見遠	I	基礎奏法および伴奏法の研究。
ピアノ	守田見遠		古典派音楽の研究。
ピアノ	守田見遠		浪漫派音楽の研究。
ピアノ	守田見遠		近代派音楽の研究。
対位法	未定	Ⅳ	パレストリーナ様式の対位法の概説と実習。
作曲学	未定	Ⅳ	作曲様式の変遷について。(レコードを使用しつつ楽曲解剖の実習を含む。)
音楽学演習	未定	Ⅳ	音楽学に関する外国文献の抄読。
音楽形式学	未定	Ⅲ	創作実習を課しつつ系統的に取り扱う。
音楽概論	美田	I	楽典の詳説および実習と音楽学序説。
和声法 I	美田	Ⅱ, Ⅲ	古典派からロマン派に至る和声法の概説と実習(鍵盤上の実習を含む。)
和声法 II	美田	Ⅲ	ロマン派以後近代に至る和声法の概説と実習(鍵盤上の実習を含む。)
和声		I	基礎発声法研究。コールユーブンゲン等による基礎唱法(ソルフェージュ)

音楽理論		I	ユ。) 音楽一年の音楽概論を前期のみ合併で行なう。音楽理論の基礎。
音楽教育概論	真 篠	I, II	音楽教育の目標および内容。ならびに指導の方法と評価。
音楽教育特講	真 篠	III, IV	音楽教育の諸問題。
音楽教育学演習	真 篠	IV	欧米の音楽教育。
西洋音楽史	未 定	II	15世紀から17世紀にいたる西洋音楽史。
音楽史演習	未 定	IV	卒業論文指導を中心とする中世音楽史セミナー。
日本音楽史	吉 川	III, IV, 後	古代中世を序論として近世に主眼をおく音楽史ではあるが、随時音楽理論、音楽思想等にも言及する。
音声生理学	未 定	III, IV, 後	音楽教育のための必要な聴覚と音声の生理学概要。

文教育学部 共通			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
△社会関係科目			
法・政治思想史	井 上	III, IV	古代ギリシアから現代までの法律および政治の思想史および理論史。封建制より資本主義への移行の歴史過程を基礎として経済学成立の条件を明らかにし、合せて各国資本主義の構造的特質の究明におよびたい。現代社会学において基本問題として重視されているテーマについての研究内容について議義し、あわせて現代社会学の性格そのものを理解させる。
経 済 学	安良城	III	
社会学特講 (現代社会学) の基本問題	大 橋	III, IV	
社会調査法	大 橋	III, IV	
社会学演習	大 橋	III, IV	社会調査の方法および技術について演習形式と講義方式を併用理解させる。後期は実習の予定。 原典をテキストとして、社会学理論を集中的に追求する。テキストは目下未定。
△学部共通科目			
ギリシア語初級	井 上 (忠)		田中秀央著「初等ギリシア語文典」(研究社)
ラテン語上級	井 上 (忠)		「初等ラテン語読本」(田中秀央)より Cicero に至る。
言語学概論	山 本		調音・音響音声学の概説(クセジュ「音声学」使用)、記述言語学(音韻論、形態論の概要および分析手順の演習)、歴史言語学(音韻変化・形態変化について)

理 学 部			
基礎教育科目			
科 目 名	担当教官	対象学年	講 義 内 容
基礎数学 I	林 田	I	微積分および代数の基本的事項。寺阪・福原・稲葉・坪光・山崎 共編「微分と積分」(共立出版)
基礎物理学 I	阿 阪	I, II	質点、剛体及び連続体の力学、振動、波動、音及び熱に関する基本的事項。微積分の初歩の知識を必要とする。
基礎化学 I	内 海	I	化学の系統を元素の性格に従って学ぶ。内海著「元素序説図表編(共立出版)」を教科書とする。前期総論、後期各論。
基礎生物学 I (動物学)	木 下	I 前	自然科学を専攻する学生を対象として、生物学の基本的な問題を二、三とりあげる。高校で生物を履修していることが望ましい。
基礎生物学 I (植物学)	太 田	I 後	植物の細胞、遺伝を中心として、生物学の基礎となる事実や考え方を紹介する。
基礎数学 II	立花(俊)	II	基礎数学 I の続き。微積分と解析幾何。
基礎物理学 II	石 黒	I 又は II	電磁気・光・原子・分子の物理学に関する基本的事項の解説。
※基礎化学 II (物理化学)	立 花	II 前	化学熱力学。テキスト：ムーア著「物理化学」(邦訳)上巻 © [基礎化学 I、基礎物理学 I]
基礎化学 II (有機化学)	林	II 後	有機化学の概論。

基礎生物学 II (動物学)	柳 田	II 後	生物学の一断面
基礎生物学 II (植物学)	大 槻	II 前	植物の生理に関する基礎的知識を与える。
理学部 共通科目			
科 目 名	担当教官	対象学年	講 義 内 容
一般物理実験	小 川	II 前	基礎的な実験法を練習体得せしめる。(医学歯学進学用)
基本化学実験	岡 嶋	化学科以外の理学部 I 前又は II 後	化学の基本となる実験。テキスト：一般化学実験(仁田勇編 共立社)
生物学実験		II 以上	医学進学希望者は生物学科の実験の部分を参照。
天 文 学	山 下	III, IV	
地 球 物 理 学	赤 松	III, IV	「地球物理学」全般の概略的な内容の説明、および各部門の現状。歴史的記述からはじまって、核爆発探知に至る地震学の紹介。

理学部専門科目

数学科

※のついた科目の履修は、講義内容の欄に◎をつけてある科目を修得しておくこと。

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
統計学 実数論・同演習	魚返 渋谷	I前 I後	テキスト 森口繁一著初等数理統計学(培風館)
微積分学 I 同演習	亀谷	I	微積分学の初歩を一変数の関数について述べる。
代数学 I 同演習	稲葉	I	古典代数学の基本的事項。整数、複素数、多項式、行列式など。
微積分学 II 同演習	松田	II	多変数の微積分とその演習。
代数学 II 同演習	稲葉 林田	II前 II	抽象代数学におけるいろいろな概念とその基本事項の説明。 主として2次元3次元のユークリッド幾何学および演習。
解析幾何学 同演習	林田	II	
位相空間論 同演習	亀谷	II後	位相空間論入門。連結性とコンパクト性を中心として述べる。
函数論・同演習	伊関	III, IV	一複素変数函数論の初歩とその演習。
数理統計学	魚返	III, IV 後	数理統計学の初等的解説。

微分方程式論 I 同演習	洪	III, IV 前	求積法、微分方程式論の初歩とその演習。
微分方程式論 II	渋谷	III, IV 後	
実函数論	洪	III, IV 前	Lebesgue 積分論を中心に述べる。
代数学 III 整数論 特殊講義	秋月 岩村外	III, IV III, IV	現代的な数学の考え方を代数学と整数論の初歩を材料にして講義する。 群・環・体の概論を、いろいろな例をとりあげながら解説する。 前期には Programing の基礎理論を講義する。

物理学科

※のついた科目の履修には、講義内容の欄に◎をつけてある科目を修得しておくこと。

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
物理学演習第一 実験工作法	石黒 小川	I I後	物理学の学習に必要な微積分の演習。 物理実験に必要な種々の工作や基礎的な実習器具について説明し、かつ実習する。
力学第一 物理学実験第一	石黒 坂上	II II	質点・質点系・剛体及び解析力学。 基礎量の測定法、基礎的機械の使用法を習熟体得せしめると共に、実験結果の取扱法及び基礎的な実験操作法の練習。
物理学演習第三 物理数学 物理数学	石黒 下瀬 橋爪	II II後 III前	力学第一に並行して、力学の諸問題を解く能力を育成する。 複素回路積分、Laplace 変換、Fourier 級数等。 常微分方程式及びその境界値問題、Green 函数・固有函数による任意函数展開。

物理学演習第二	下瀬	II	物理数学の講義に関連した演習。
電磁気学及び光学第一	中村	II後 III前	電磁現象を、いろいろな観点から眺めて、その物理的意味を把握させながら、Maxwell の方程式を導びく。ベクトルの基礎知識を前提とする。
物理実験学	坂上	II後 III前	実験結果整理法、基礎量の測定法、基礎的装置使用法、実験操作工作法の基礎。
特別輪講	橋爪	III	
物理学実験第二	大野	III	物理実験第一を終了した学生に対し、更に進んだ実験技術を修得せしめる。
原子物理学	阿中	III前	黒体輻射・前期量子論・原子スペクトル・原子の衝突。
※力学第二	小川	III前	連続体の力学。特に流体力学。◎〔力学第一〕
電子工学	阿中	III前	電子管（主として真空管）及びその回路の基礎。
電磁気学及び光学第二	小川	III後	電磁波としての光の伝播、干渉、回折。結晶中の光の伝播、X線の回折、物質の電氣的磁氣的性質。などについて。
熱学及び熱力学	大野	III後	熱力学の諸原理に重点をおいて説明する。
※数理物理学	大野	III後	偏微分方程式及びその初期値問題、境界値問題、変分原理。 ◎〔物理数学〕
※流体力学特論	阿中	III後	最近の流体力学の発展。特に境界層、乱流及び高速気流について。 ◎〔力学第二〕
※量子力学	下瀬	III後 VI前	粒子と波動・不確定性原理・シュレーディンガー方程式・振動論。 ◎〔力学I〕〔電磁気学及び光学I〕
量子力学演習	下瀬	III後 VI前	量子力学の講義と並行して問題を考究する。
※気体論	橋爪	IV前	古典及び量子統計力学につき講義する。◎〔熱学及び熱力学〕

原子核物理学	小林	IV前	核物理学の入門講義。内容はテキスト Eisenbud-Wigner : Nuclear Structure (Princeton) 1958 を中心とし、更に時間的余裕があれば加速器と放射線計測についてふれる。
物性論	大野	IV後	気体論、統計力学を聴いてあることが望ましい。
地球物理学	赤松	III, VI	「地球物理学」全般の概略的な内容の説明、および各部門の現状。歴史的記述からはじまって、核爆発探知に至る地震学の紹介。
天文学	山下	III, VI	
特別研究	全教官	VI	各教官の研究室に別れて行なう。
化 学 科		※のついた科目の履習は、講義、内容の欄に◎をつけてある科目を修得しておくこと。	
科 目 名	担当教官	対象学年	講 義 内 容
基本化学実験	岡嶋	化学科 I	化学の基本となる実験。テキスト：一般化学実験（仁田勇編、共立社）
※物理化学 I	立花	II	化学平衡と反応速度論。テキスト：ムーア著「物理化学、上下」(邦訳) ◎〔基礎化学 I、基礎物理学 I、II の程度の予備知識を要す〕。
※分析化学 I	吉野	II 前	化学分析に必要な基礎事項。定性分析について。◎〔基礎化学 I〕
※分析化学 II	吉野	II 後	同上、定量分析について。◎〔分析化学 I〕
※有機化学 I	林	II	有機化学の基礎および鎖状化合物の概論。◎〔基礎化学 I〕
有機化学演習	林	III	Fieser 著 Textbook of Organic Chemistry(丸善版)を用いて行なう。
無機分析化学実験	内海 中西	II	無機物質を扱う定性分析、容量分析、比色分析、電気分析および無機化合物の簡単な製造、精製実験。◎〔基本化学実験〕

※無機化学 I	内海	III	元素および無機化合物について原子理論、結合論および物性論を化学的に学ぶ。◎〔基礎化学 I、II〕
※生物化学 I	阿武	III	炭水化物、脂質および核酸の化学と、ホルモン、ビタミンに関する概説。◎〔基礎化学 II または有機化学 I〕
※物理化学実験	立花 和田	III	物理化学の基本的技術(実験と計算)の実習。テキスト: 鮫島実三郎著「物理化学実験法」◎〔物理化学 I・一般物理実験〕
有機化学実験	林 塩田	III	有機化合物の合成、反応、定性分析等に関する基礎的実験。
物理化学 II	和田	III	量子力学、統計熱力学による分子論的な物理化学。
※有機化学 II	塩田	III	脂環化合物、芳香族化合物、複素環式化合物の化学。◎〔有機化学 I〕
※生物化学 II	瀬野	III後	蛋白質および酵素の化学。◎〔生物化学 I〕
天然色素化学	黒田	III	無機化合物の色に関して整理した後、有機化合物の色素の分子構造を吟味し、天然色素(植物色素及び動物色素)各論に及ぶ。
構造化学	児島	III, IV 前	分子の振動ならびに回転に基づくスペクトルについて理論的考察を行ない、さらに核 4 極共鳴吸収の考察から化学結合性の考究に進む。
高分子化学	小寺	III, IV 後	高分子化合物の特性、各論に引きつづき構造論、溶液論、重縮合反応論、粘弾性論につき、プリントを使用して行なう。
生物化学実験	阿武 瀬野	IV前	炭水化物、蛋白質、脂質および酵素についての基礎的実験。
生体反応論	吉川	IV前	◎〔生物化学 I および II〕
化学演習	化学科 全教官	VI	外国語で発表された研究論文の解説と討論。
化学特別研究	化学科 全教官	VI後	物理化学、無機分析化学、有機化学、生物化学の研究室において特定のテーマについて行なう研究実験。

生物学科 動物学専攻			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
動物系統学	久米	II	動物の種類を(主として構造発生を基礎にして)系統的に比較する。
同実験	久米	II	動物の代表的な種類についての解剖実習。
動物細胞組織学	木下	II後	動物の細胞と組織の構造とその機能について形態学的な立場と生理化学的な立場とからふれてみたい。
同実験	木下	II後	主としてパラフィン包埋、マイクローム切片、通常染色法及び顕微鏡操作について習得する。
動物発生学	団	III前	脊椎動物無脊椎動物にわたり、正常発生の各現象(受精、卵割、胚類器管形成)につき説明する。
同実験	団	III前	講義に準じて、主として無脊椎動物の材料を用いて、正常発生の各現象を観察する。
実験形態学	団 木下	III後 IV前	実験発生学、特に細胞の増殖、分化及び形態形成について。
動物生理学	柳田	III	一般生理学的な基本問題を顧慮しつつ、下等動物を中心に比較生理を論述する。
動物生理学実験	柳田	III	毎週グループに一題ずつ簡単な実験を課し、生理学的な基本手技の心得を養う。
動物生理化学 同実験	荒木	III後 IV前	動物の生理現象をビタミン・ホルモン・酵素その他の作用物質を中心として分析総合することを試みる。
動物学臨海 実習 I	久米 木下	III前	動物の分類・形態についての観察実験。動物系統学を履修しているものに限る。

動物学臨海 実習Ⅱ	団	Ⅲ	海産無脊椎動物の発生を観察し、実験を行なう。
動物生理学臨海 実習	柳田	Ⅳ前	三崎臨海実験所に三日間滞在、生活材料を用いて小さな観察。
動物学セミナー	団 柳田 木下 荒木	Ⅲ, Ⅳ	教育、学生が合して、各自動物学に関する選ばれた論文を紹介し、あとでそれについて全員で論議を行なう。
動物生態学 動物生態学 野外実習	堀越	Ⅲ後	環境とは何か、個体・個体群・群聚の生態学。生態系の構造と機能。
動物心理学	丘	Ⅲ前	動物心理学の目的、対象、方法につき述べ、下等動物、高等動物の数群につき、著名な研究成果を紹介する。
特別講義 (発育生理)	柳田	Ⅲ, Ⅳ	微生物生理学における現在の興味ある二、三の問題について。成長、タンパク質合成と核酸の役割など。

生物学科 植物学専攻

科目名	担当教官	対象 学年	講義 内 容
植物外部形態学 同 実 験	津山	I	植物の栄養及び繁殖に関係のある諸器官の構造、配列およびその進化。同上の実験。
植物組織学Ⅰ 同 実 験	井上	Ⅱ前	管束植物の栄養器官の内部構造と、その基礎的事項。同上の実際についての観察。
植物組織学Ⅱ	津山	Ⅱ後	高等植物の個体発生、組織分化に関してのべる。

同 実 験	津山		同上の実験。
植物細胞学 同 実 験	太田	Ⅲ	植物体の構成単位である細胞の構造と機能の関連について。及びその実験。
植物生化学 同 実 験	大槻	Ⅲ前	植物体の化学組成、酵素。炭水化物、蛋白質とその生体内合成等。
植物生理学Ⅰ 同 実 験	大槻	Ⅱ前	植物の形態変換及び位置変換の生理。
植物生理学Ⅰ 同 実 験	塚本	Ⅲ前 Ⅲ後	植物生理学に関する適当な教科書により行なう。
植物生態学	佐伯	Ⅲ後	環境要因と個体生態学、物質生産と生長、地理学的物質生産、階層と競争、群落統計、遷移。
植物学臨海実習	津山	Ⅲ	海藻類の外部形態・組織・分類。植物外部形態学の知識必要。
植物分類学	津山	Ⅱ前	各植物群の系統的類縁を明かにし、進化のあとをたどる。
微生物学 同 実 験	大槻	Ⅱ後	微生物学一般に関する講義。培養、種類の鑑別、代謝生理等。
植物生理学Ⅱ 同 実 験	塚本	Ⅲ後 Ⅳ前	前期の続きを行なう。
植物学野外実習	津山	I ~ IV	日帰りまたは2~3泊旅行をなしつつ、外部形態、分類、分布などの実習。

生物学科共通(遺伝学)			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
遺伝学総論	新 関	Ⅱ後 Ⅲ前	遺伝の現象と、理論の基礎的なものの説明。
遺伝学実験 遺伝学各論 同 実 験	新 関 岡	Ⅲ Ⅳ前	同上実験で染色体観察法、交配技術など。 遺伝に関する基礎的なものと尖端的なもの。
細胞遺伝学 人類遺伝学 優 生 学 育種学(総論)	小 野 大 倉 岡	Ⅲ後 Ⅲ前 Ⅲ後 Ⅲ前	人類における遺伝の理解とその応用を実例について解説する。 人間における遺伝とその関連における諸問題、特に民族衛生学。 品種改良に関する諸問題。
育種学(植物)	浅 山	Ⅱ前	花卉、蔬菜、果樹の栽培について実際と理論を学び、その利用を考究する。
園 芸 学	浅 山	Ⅰ～Ⅳ 前	上に同じ。
放射線生物学	仲 尾	Ⅲ後	

家政学部			
児 童 学 科			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
児童学演習	松 村	Ⅰ	児童学の動向・児童学の対象と領域の一般的な知識が習得されるように、本邦文献を中心として、演習形式で研究的にすすめる。
精神検査	松 村	Ⅲ前	精神検査(プロジェクトィブ テスト)を診断「即」治療の立場からとり扱う。
児童生活指導	松 村	Ⅲ後	個人及び集団指導の理論と技法。
臨床心理学	松 村	Ⅳ前	適応と変革の理論と技法。(1)臨床心理学の動向、Counseling など。
精神衛生	松 村	Ⅳ後	適応と変革の理論と技法。(2)精神衛生の動向、Psychodrama など。
児童心理学	浅 見	Ⅱ前	児童心理全般にわたって、基礎的な諸事実、原理を概観する。
児童心理学 実 験 演 習	浅 見	Ⅲ	児童心理に関する実験研究のために必要な基礎的・典型的実験方法の実習ならびに簡単な統計処理法の訓練を行なう。
児童心理学演習	浅 見	Ⅲ	児童心理学に関する外国文献の講読(ドイツ語文献および欧米文献)。
青年心理学演習	浅 見	Ⅳ	青年期の心理に関する問題点について、文献による考察を行ない、あわせて文化人類学的な観方を加える。
児童生活指導	浅 見	Ⅱ後 Ⅳ後	児童のパーソナリティーの形成◎発達の問題を学習理論から考察し、実際上の養◎指導◎治療の諸点を精神分析理論と対照させながら言及する。

児童福祉 児童福祉演習	津守 辻村	IV前 IV	児童福祉の諸分野について、その問題点を追究する。 近世以降の日本の児童の社会的処遇の歴史を顧み、それが現行の児童福祉の保障へ発展してきたことを研究する。
幼稚園実習 保育技術	菊池 菊池	III III前	幼稚園教育の目標と内容、その指導。カリキュラム、絵画製作の指導。 教育内容各論の中の絵画製作の指導、簡易玩具の製作。
小児医学第一 (発育・生理論)	平井	I後 II前	胎児より青年に到る各期の発育、生理の特徴および系統的な発育について考究し、児童身体の基本的な理解に資する。
小児医学第二 (養護理論及び学校保健)	平井	II後	胎児より青年に到る各期の養護及びその理論、幼稚園・学校における保健管理・精神衛生の方法について考究し、その応用を検討する。
小児医学第三 小児医学実習第一	平井 平井	III前 II	脳神経系の状態、精神身体症状に関する理論、予防・治療の対策。 健康児の身体測定、臨床検査(尿、血液、神経)を行ない、乳児院・病院などにおいて実習する他、各種施設の見学を行なう。
小児医学実習第二 児童文化 個人及公衆衛生	平井 阪本 船川	III III II	小児の精神障害について、研究課題を持ち実験・実習を行う他、各種の施設の見学を行う。 児童文化の本質、児童文学および各種の児童文化財について考察する。 人間の生理機能環境との相互関係、公衆衛生の意義、公衆衛生基礎的知識、公衆衛生活動の実際、特に母子衛生、学校保健、衛生行政。
青年心理学 精神検査演習		II後 III	青年期における心理的・社会的成熟現象を研究する。 知能検査、性格検査、その他の検査の概説を演習。
家庭教育第二 幼稚園ナースリ-第一	津守	III前 II前	家庭における世代、きょうだい、結婚の諸問題。 乳幼児の心理的発達と、乳幼児保育の原理について講義する。
幼稚園ナースリ-第二	津守	III前	幼児教育の諸分野について、高度の研究をすすめるための研究法、技術等について考究する。

児童学概論	津守	I後	児童学の分野、対象、方法等について概観し、いくつかの問題点について考察する。
家庭教育第一	津守	II後	家族の人間関係、とくに親子関係について、児童の心理的発達にそくして講義する。
家族関係演習	津守	III	親子関係、夫婦関係、同胞関係等家族の人間関係について、原理的、実際的問題を追究する。
特講 (精神発達研究)	津守	学年指定なし (含専攻科)	精神発達過程及びその規定条件について、高度に専門的に、現在までの研究成果を総括する。

食 物 学 科

科 目 名	担当教官	対象学年	講 義 内 容
栄養化学	稲垣	III前	栄養素の化学・生理的意義・新陳代謝および栄養要求量などについて述べる。
栄養化学実験	稲垣	III前	天然物よりビタミンの抽出、ビタミンの化学的定量法、動物実験等について実験を行なう。
ビタミン学	稲垣	III後	各種ビタミン発見の歴史・構造・性状・生理作用・所在等について述べる。
栄養化学輪講	稲垣 稲垣 稲垣	IV	栄養素の化学をテキストを用いて行なう。
食物学演習	食物学科 全教官	IV	外国語で発表された近着研究論文の解説と討論。

酵素化学	福場	Ⅲ前	食物の消化、栄養素の生体代謝及び食品の加工貯蔵等に関する酵素について概説する。
酵素化学実験	福場	Ⅲ後	主として、天然物より酵素の分離および酵素作用の測定、微生物取扱法等について実験する。
食品微生物学	福場	Ⅲ後	微生物の分類、性状、取扱法等について述べる。
食物衛生学	福場	Ⅲ前	衛生微生物、食中毒、腐敗、食品鑑別法等食物衛生に関する一般的知識について概説する。
栄養心理学	小池	Ⅲ	人体に於いていとなまれる生命現象を、各臓器の働らき、栄養素の代謝、生活活動、疾病の予防などの面から考える。(教科書：人体生理と栄養)
食品化学	木原	Ⅰ前	食品の成分に関する基礎化学。
農産食品化学	木原	Ⅰ後	農産食品の処理、加工、貯蔵に関する化学。
食品化学実験	木原	Ⅱ	食品の一般分析、水の分析。
食品化学論	木原	Ⅳ	食品化学に関する書物の論読。
水産食品化学	山西	Ⅱ後	水産食品の成分及び調理、加工、貯蔵中の変化。
食品化学(特論)	山西	Ⅲ前	食品の色、香、味の成分及び有毒成分に関する化学と嗜好食品。
食品化学実験	山西	Ⅲ	食品の主成分の分離、定量及び簡単な有機合成。
天然物研究法	古賀	Ⅳ前	化学実験に必要な一般測定技術について電気測定あるいは電子技術を中心に述べ、天然物に対する機器分析応用のための基礎知識を提供する。
醸酵食品学	山田	Ⅲ前	微生物の概念とその利用の形式を述べた後主として酵素作用を説明し、醸酵食品の製造課程に於ける微生物の役目に就き講述する。
畜産食品学	藤巻	Ⅲ後	乳・肉・卵について主として食品化学的に解説する。特に食品の品質を向上させる為にとられている最近の化学的進歩に重点をおいている。
献立論及び実習	松元	Ⅲ,Ⅳ前	栄養学、食品学を基礎として献立への過程を述べ、献立作製の演習を行なう。

調理実験	松元	Ⅱ後 ~Ⅲ前	調理のための食品学について述べ調理に関する基礎的実験を行なう。
調理学Ⅱ	松元	Ⅲ後	主として、中華料理の一般を講義実習する。
食生活史	松元	Ⅳ前	日本の食生活の変革を、食品、調理、食事様式等の立場から述べる。
調理学Ⅰ	吉松	Ⅱ前	主として基礎的調理の一般を講義実習する。
調理学Ⅱ	吉松	Ⅲ後	主として欧風料理の一般を講義実習する。
調理学Ⅲ	由井	Ⅲ後 ~Ⅳ前	日本料理一般(儀式料理も含む)及び病人食餌について講義実習する。
食糧政策	桜井	Ⅲ後	食べものの消費に関する考え方を日本の現状を中心として述べる。
調理学論	松元 吉松	Ⅳ	調理実験に関係ある外国文献の論読を行なう。
調理学	伊東	Ⅲ,Ⅳ	児童学科及び被服学科学生の為、手法別、食品別による基本調理、調理実験をする。

被服学科(被服科学コース)

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
染色化学第一	矢部	Ⅱ前	染料の部属別特性、染色堅ろう度、染色機構の概要、各種繊維の染色性等を総論的に概説する。
染色化学第二(各論)	矢部	Ⅱ後	染料の染色性各論。直接、酸性、硫化、ナフトール、建染メ、酸性媒染分散染料等の染色性、適用繊維との関係を概説する。
染色化学第三(特論)	矢部	Ⅲ	測色学。発色理論。染色の基礎化学(染着平衡と染着速度論)。染着伏態(堅ろう度との関係)。

染色化学実験第一	林	II後	直接染料、酸性染料の染色。染料の鑑別。染着量定量法。堅ロウ度試験。建染メ染料によるろうけつ染め等。(家政学実験講座V巻)
染色化学実験第二	矢部	III	基礎実験法(染着平衡の測定。吸着等温式の導出。セロファン巻層法による染色速度測定) 応用実験(分散染料の染色法)
被服材料学第一	松川	II	被服材料の分類、原料、性質など。とくに繊維製品の性質や繊維各論。プラスチック、ゴム、皮革の概説。(松川著「被服材料(学)」)
被服材料学第二	松川	III	繊維構造論、人造繊維製造法、繊維の改質・加工、被材に関連のある高分子化学序論、プラスチック各論、新しい話題などで第一を補う。
被服材料学実験第一	林	II前後	基礎実験、繊維の鑑別・混合繊維の分離定量、繊維の取り扱いに関する実験。(家政学実験講座I、IV巻)
被服材料学実験第二	松川	III	繊維の物理的・化学的諸性質の測定高分子化合物の基礎性質。簡単な人造繊維の合成、繊維の改質、織物の加工など。(同上、IV巻)
被服科学演習第一	松川	III, IV	繊維の諸性質を他の高分子化合物と関連させ外国語テキストで学ぶ。(III, F. W. Billmeyer, Textbook of Polymer Chemistry; IV, B. Jirgensons, Organic Colloids)
被服科学演習第二	矢部	IV	染色化学に関する外国図書の講読。Th. (Vickerstaff): "The Physical Chem of Dyeing" (1954)
被服整理学	矢部	III前	洗淨用水、界面活性剤、洗淨理論、洗淨力試験法などの基礎事項、被服の損傷劣化。防汚、防水加工等。
被服整理学実験	矢部 松川 林	IV前	水の硬度測定。洗剤の溶液特性、洗淨力試験。漂白、羊毛の縮織、糊付け、樹脂加工に関する実験等。(家政学実験講座V巻)
被服科学輪講	松川 矢部 林	IV	近着外国文献(英米独)の主としてオリジナルな報文につき、輪講及び討論。
被服機構学	真島	II	被服材料変遷の理由、被服損傷の機構、防暑服、防寒服の理論、布地の

被服衛生学	田多井	III	光沢度その他。 環境と人体機構を中心に、その適応における被服の役割について述べる。田多井吉之介 田多井恭子:「最新被服衛生学」(光生館)
被服学科(被服構成コース)			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
日本服飾史概説	谷田	I前	上代より近世に至る服飾の概観、特に服飾における美意識の把握を問題として。
西洋服飾史概説	谷田	I後	上代より近世に至る服飾の概説ヨーロッパ服装の成立要素の解明を中心に。
東洋服飾史概説	谷田	III後	中国服飾史、特に古代中世服飾の日本への影響関係。
染織工芸概論	谷田	II後	生活造形の一分野として見た染織工芸、意匠・文様論、および染織工芸史の概説。
服飾美学概論	谷田	III後	服飾類型、美的範疇、流行の各論。
服飾美学演習	谷田	VI	講読および資料検討。
服飾史特講(A) 日本服飾史(近世)	田実	III, IV前	昨年に引続き「近世服飾史—小袖の変遷」を行なう。今年は小袖模様の変遷に講義内容を絞ってすすめる。
服飾史特講(B) 西洋服飾史	丹野	III VI後	(1)衣服の基本形態について。(2)中世後期から近世にかけての女子服の変化を、社会史的に解釈し、かつ、それに伴う技術的発達追求を試みる。
色彩学概論	石山	II	色彩理論と基礎デザイン; Color system、配色論、混色、色の物理、色の生理など。

服飾意医学概論	石 山	Ⅲ	Chambers; Selling Fashion Merchandise 講読解説及びファッション画に重点をおく。
服飾意医学特論	石 山	Ⅵ	Chambers; A Fashion Manual 講読解説及び創作意匠。
現代衣裳論	石 山	専	現代日本の衣服産業。
被服構成学並びに実習第一	柳 沢	Ⅰ (前後)	被服構成に関する基礎技術その1。
被服構成学並びに実習第一	柳 沢	Ⅲ (前後)	衣服の立体構成に関する基礎的事項。同実習。
被服構成学並びに実習第二	成 田	Ⅵ (前)	被服構成に関連のある諸問題。
同上第二	渡 辺	Ⅵ (後)	被服構成計画に関する基礎的事項。主として、防寒服・防暑服設計について。
同上第一	石 田	Ⅱ (前後)	被服構成に関する基礎技術その2。
同上第三	石 田	Ⅲ (前後)	被服の平面構成に関する基礎的事項。同実習。
同上第三	石 毛	Ⅵ (後)	着装に関する基礎的事項。生理衛生的考察を中心として。
被服構成学並びに実習	石 毛	児食 Ⅱ (前後)	被服の構成に関する基礎的事項。

家政学部共通			
科 目 名	担当教官	対象学年	講 義 内 容
家政学原論	伊 藤	I 後	家政学成立の歴史、家庭生活の意義、家政学の本質・研究方法など。
家族経済学概論	伊 藤	I 前	家族経済学についての一般的、基礎知識の理解。
家族経済学ⅠⅡ	伊 藤	Ⅱ	家族経済学総論、収入論、支出論、経済準備論。
家計簿記論ⅠⅡ	伊 藤	Ⅲ	家計簿記の概説と演習。
児童学概論	平井, 津守	Ⅰ	小児保健の概要及び育児の要点について。児童学の分野・対象・方法について。
食物学概論	木原, 稲垣	I 後	食品の組成及び取扱法及び栄養学の概要。
被服学概論	谷 田他	Ⅰ	被服材料、染色、整理、服飾美学、意匠、構成の概要。
住居学概論	野 村	Ⅱ前	テキスト「住居」による。住居の役割、設備、室の機能、間取、住居の管理、住居問題、設計の仕方。
家庭管理学概論	稲 葉	Ⅲ	家庭生活における労働と時間の使い方に関する一般論。
家庭管理学持論	稲 葉	Ⅲ	家庭経営上、家庭生活の改善点を調査検討する。
家庭看護法	未 定	Ⅲ後	
家庭工作	熊 本	前	中学校技術科における家庭工作の理論と実習。

教職教育科目			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
教育心理学 (青年心理を含む)	内田	Ⅱ	教育心理学の本質と領域。学習心理の諸問題。発達過程と青年期の心理。
教育原理	吉田	Ⅱ前	教育の目的、内容、方法、生徒指導について概観する。教職必修で、生徒指導は後期にきりはなして行なう。同一並行講義(周郷教授担当)あり。
教育指導	吉田	Ⅱ後	生徒の個別指導、集団指導、特別教育活動等についての目的、内容方法を概観する。
教育原理 教育指導	周郷	Ⅱ前 Ⅱ後	教育の見方、考え方の発展、現代におけるその制度、方法および原理——比較的研究。
道德教育の研究	勝部, 藤田 宮田, 周郷	Ⅱ	①特設道德の意義、②生活指導の類型、③道德教育の構造、④人格の構造、⑤道德価値の体系。
教科教育法			
(社会)	尾鍋	Ⅲ	歴史的教育を中心として、社会科教育の問題点をのべる。テキストは尾鍋「国際的視野から見た歴史教育」
(社会)	渡辺(光)	Ⅲ	地理教育の基盤として必要な事項の説明を主とし、併せて文部省別定指導要領の趣旨の説明を行なう。
(国語)	斉藤	Ⅲ後	テキスト「国語科教育法概説」を使用して中学校、高等学校の指導理論と方法を取り扱う。
(中国語)	頼	Ⅲ	
(英語)	宮田	Ⅲ後	外国語教授の歴史、外国語教授の心理、その他英語教授に関する理論的および実際の諸問題。ノートによって講義する。

(体育)		Ⅲ後	体育(保健体育)の教育方法についての一般的理論。学習指導要領の研究。
(保健)	渡辺	Ⅲ後	保健に必要な基礎的科目をたてにし、これを、中・高校生の知能と、教室環境にてらし、要点の軽重に応じた指導法を講ずる。
(音楽)	真篠	Ⅲ	小学校・中学校・高等学校における音楽科の教育課程。
(数学)	伊関	Ⅲ, Ⅳ	数学教育における常識的事項。
(理科)	森川	Ⅲ	理科教育の目標、中・高等学校の理科の教育課程、指導計画の作成、学習指導法、評価、理科の施設・設備、科学クラブの指導、現職教育等。
(家庭)	伊藤	Ⅲ後	家庭科教育の変遷、指導目標、家庭科における教育課程の編成、学習指導の計画、単元の設定および展開、学習指導の方法など。
教育実習		Ⅵ	高校・中学教員のための実習(2単位分)と小学校幼稚園教員のための実習(4単位分)とがある。高・中の場合は7月2回の予定、付属各校のほか学外協力学校をも実習校とする。
小学校教材研究			
算数(加藤)			
理科(阿久沢)			
国語(大橋)			
図工(林)			
家庭科(富平)			
音楽(福田)			
社会科(宮地)			
体育(古江)			
保育内容の研究			幼稚園教員希望者のための科目。児童学科における関係諸科目および幼稚園教員養成課程における関係諸科目と同一履修。
教育哲学	周郷	Ⅲ後	20世紀における教育哲学の発展と問題——芸術(技術)教育を中心にして。

西洋教育史	関野	Ⅲ前	社会的見地により近代教育思想の推移と制度の展開。(今日の教育課題の歴史的考察を中心として)
教育行政	関野	Ⅲ	戦後の教育改革の推移と特質とを歴史的行政的視点から考察。とくに教育基本法、学校教育法その他教育諸法の意義と今日における教育課題。 [前期と後期の2回に分ける]
視聴覚教育	坂元	Ⅱ前	視聴覚的な手段を教育の目的のために利用することについて、その理論ならびに実際について、広く研究する。
教育社会学	河野	Ⅲ後	教育社会学の意義、その領域と方法を概観し、こんにちにおける主要な問題を明らかにする。

各科補導委員

昭和36年度

学年 科別	4年(33年度)	3年(34年度)	2年(35年度)	1年(36年度)
哲学科	藤田先生	藤田先生	勝部先生	石塚先生
史学科	尾鍋 "	尾鍋 "	中村英勝 "	赤木 "
地理学科	渡辺 "	式 "	浅見 "	松井 "
国文科	関根 "	次田 "	市川 "	堤 "
中文科	網 "	網 "	網 "	網 "
英文科	鍋島 "	木原 "	野島 "	滝沢 "
教育科	吉田 "	宮田 "	波多野 "	小口 "
体育科	林 "	小野 "	石山 "	渡辺 "
音楽科	藺田 "	守田 "	遠見 "	美田 "
数学科	亀谷 "	伊関 "	松田 "	稲葉 "
物理学科	下瀬 "	大野 "	坂上 "	石黒 "

化学科	立花 "	瀬野 "	塩田 "	岡嶋 "
動物学科	岡 "	木下 "	団 "	荒木 "
植物学科	大槻	塚本	新関	津山 "
児童学科	平井 "	松村 "	浅見 "	津守 "
食物学科	木原 "	吉松 "	山西 "	松本 "
被服学科	松川 "	石山 "	矢部 "	林 "

昭和36年度行事予定

(学生関係)

4月11日(火)	入学式	
4月12日(水) 13日(木) 15日(土)	入学指導	
4月13日(木)	全学授業開始	
4月下旬	就職指導開始	4年生だけ
5月上旬	定期健康診断	2年生以上
5月中旬	全学遠足	
5月中旬~6月	球技大会	
6月1日(木)~17日(土)	高校、中学観察参加(未定)	4年生だけ
6月19日(月)~7月17日(月)	第一期及び第二期教育実習(未定)	4年生だけ
7月3日(月)~9月11日(月)	夏期休業	
10月3日(火)~9日(月)	前期試験	
10月10日(火)~20日(金)	前期休業	
10月20日(金)	後期授業時間割発表	

10月21日(土)	後期授業開始	
10月~11月	体育祭・文化祭	
11月29日(水)	開学記念日	
12月25日(月)~1月7日(日)	冬期休業	
2月6日(火)~12日(月)	4年生試験(専攻科等も含む)	
2月20日(火)~26日(月)	3年生以下試験	
3月中旬	卒業式	

授業時間割 (一般教育、体育、外国語、基礎教育、教職科目)

	1 8.30-9.20	2 9.20-10.10	3 10.20-11.10	4 11.10-12.00	5 13.10-14.00	6 14.00-14.50	7 15.00-15.50	8 15.50-16.40
月	人 心理学 松村 社 歴史学 (赤木) 基礎化学Ⅱ (立花)[林]		人 (倫理学 勝部) 社 [家政学 谷田] 自 化学 岡嶋 (統計学 魚返) [基礎植物学Ⅰ 太田]		社 経済学 安藤 自 ([地学(天文気象)吉武])		独 I文 野村	
火	独 I文 志田 I理 横溝 英 II文A 石渡 II理A 野島 II理B 滝沢・ルイス II家 ルイス・滝沢 基礎化学Ⅰ 内海		英 I文A 滝沢 II理A 野島・ルイス II文 志田 II理B家 横溝 基礎数学Ⅰ 林田		英 I文A 奥 I文B 宮田 I家 横溝 II文B 西崎 独 (高級)II~VI 志田 仏 (高級)II~VI 井上		I 体育実技 I 体育実技	
水	人 文学Ⅱ 志田 音楽 園田 自 化学 岡嶋 基礎物理学Ⅰ 阿阪 (基礎植物学Ⅱ 大槻)		人 (美学)[美術史]町田 自 物理学 小野 数学 立花		仏 II全 小泉 (基礎動物学Ⅰ 木下)		独 II理 野村	
木	英 I文B 伊吹 I理 吉田 I家 志田 英 II文A 木原 II文B 堀 II家 野島		英 I理A 伊吹 I理B 木原 I家 野島 I全 辻 II文 吉田 II理A家 志田		独 I文 吉田 仏 II全 辻		仏 I全 小泉 II 体育実技 II 体育実技	

金	人 社 哲学 (藤田)[石塚] 社会学 大橋 教職科目	人 社 文学 I 関根 (地理学 渡辺) 自 生物学 [動物学 荒木] (植物学 塚本) 基礎物理学 II 石黒 [基礎動物学 II 柳田]	II 体育実技 II 体育実技	II 体育実技 II 体育実技 II [(体育講義)]
土	英 独 英 I 家 西崎 I 理 志田 II 理 B 滝沢	英 独 社 I 理 A 堀 I 理 B 西崎 I 家 志田 社 法学 II 渡辺 基礎数学 II 立花	社 (法学 I) [政治学] 井上	

- 備考 1 括弧について () は前期だけ [] は後期だけ。括弧のないものは前後期にわたるもの
2 外国語の組別について

区 分	文 A	文 B	理 A	理 B
英 語	哲、史、地、教	国、中、体、音	数、物	化、生
独 語	哲、史、地、教、英	国、中、英、体、音		

- 3 化学は主として文教育学部と家政学の一部をA、Bの2組に分けたから担当教官の指示をまつこと
4 一般教育各系列には適当と思われる履修年次を表示していない。

